

高齢・障害者 災害時支援は

AMDAなど 岡山でセミナー



写真。

災害時における高齢者や障害者ら要援護者に対する支援を考える「災害セミナー」が二十三日、岡山市奉還町、岡山国際交流センターであり、約百人の参加者を前にボランティア、行政関係者らが実践報告やパネルディスカッションを行った。

岡山県立大大学院と国際医療ボランティア・AMDAが開催。近藤麻理助教授をコーディネーターにしたパネルディスカッションなどを通し、関係者が意見発表した。岩本一寿・岡山県済生会常務理事は、一九九五年度の阪神大震災での診療活動を報告し「被災地の

医療ニーズは時間とともに変化する。どんな医療器具や薬が必要か、事前の綿密な計画が重要」と述べた。

医療法人アスカ会（岡山市）の介護施設職員として二〇〇四年の新潟県中越地震で老健施設に向いた山岡悟・同会災害救援室サブリーダーは「高齢者介護のボランティア専門家が必要だと強く認識した」と話した。

また、若林久恭・岡山市防災対策課長代理は行政の立場から「自主防災組織の立ち上げなど、住民の協力が欠かせない」と訴えた。ほかに、倉敷市児島唐琴地区の自主防災会が要援護者支援の取り組みを発表した。

セミナーは〇四年から毎年この時期に開いている。（二羽俊次）